

Bon dia !



○ Bon dia! (おはよう!) ブラジル!

「この地面の下を、ずっと掘り続けていくと、ブラジルに着くんだなあ…」 日本を出発する直前に、これから3年間生活する、遠い、遠い国のことを考えていました。いったい、どんな国なんだろう。どんな生活が待っているのだろう。アトランタ空港を経由し、約27時間というとても長く長い旅路の末についた地、ブラジル連邦共和国リオデジャネイロ…。空港に降り立った私が、まず最初に感じたのが「太陽の高さ」でした。頭上に輝く大きな太陽…。まだ薄暗い北海道の春を過ごしていた私にとって、今まで見たこともないほどの眩しさでした。興奮で胸がドキドキし、時差ぼけの眠さもまったく感じませんでした。どこまでも広がる美しい海、大きなビル、路肩の大きなヤシの木、道行くカラフルな服を着た人々、遠くの丘に密集しているファベラ(貧民街)…。車中から目に映る景色のすべてが、ストレートに脳を刺激してくる感覚でした。

異国の地リオで暮らしはじめてから、3か月が過ぎました。最初はいろいろと大変なこともありましたが、今では少しずつですが、こちらの生活にも慣れ、ある程度楽しむこともできるようになりました。そんなリオでの生活や現地の様子、学校の様子などを少しずつですが、皆様に紹介できればと思います。まずは、「生活編」ということで、私たちの生活のようすの一部をお知らせします。

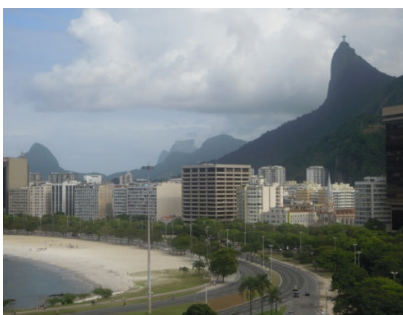
○ 住んでいるところ

リオの街は、決して手放して安全とは言えません。時間帯、場所を考えて行動すれば、街に出て買い物をしたり、食事をしたりすることはもちろん可能ですが、夜間の外出をひかえたり、人気の少ない危険な場所へ出入りしないように気をつけなければなりません。住む場所も、治安の関係上、カーサ(一軒家)に住むことは難しく、ポルティロ(門番)が常駐してくれるセキュリティがしっかりとしたアパートに住むことになっています。私のアパートは、16階建て、その11階に住んでいます。部屋数は3LDKで、シャワー室・トイレが3か所にもあり、一か所はメイドさんの専用になっています。アパート暮らしに慣れていない私たちにとって、歩くときの足音や家事をするときの物音に多少の気遣いが必要なので、ほんの少しだけ不自由を感じましたが、今のところ

快適に暮らすことができます。リオにあるほとんどのアパートには「P階」という階があり、広いスペースでパーティを開いたり、軽い運動をしたりすることができます。アパートの住民は、いつでも自由にその場所を使うことができます。私のアパートのP階には、なんと卓球台があり、休みの日には、家族で卓球をしたり、バドミントンをしたりしながら楽しんでいます。



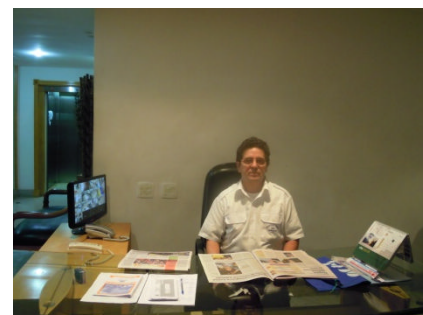
アパートの外観



アパートの窓から見える景色



アパートのP階(奥が卓球台)



アパートのポルティロさん

○ リオでの買い物

私たちのアパートは、フラメンゴ地区という場所にあります。すぐ近くには海岸もあり、景色も素晴らしい場所です。食料品などを買うことができるスーパーも、歩いて数分のところにあります。品数も豊富で大体のものは簡単に買い揃えることができます。家具や雑貨、洋服なども歩いて行けるところにあり、買うことができます。サーモンの刺身なども、普通にスーパーで買うことができたり、日本食専門のお店(値段は割高ですが…)があったりするので、極端に故郷の味が恋しくなることはありません。しかし、北海道出身の私たちにとって、乳製品、特にチーズや牛乳(こちらには生の牛乳がなく、スキンミルクのようなものがパックに入っている)の味は、やはり恋しくなります。また、タクシーで数分のところに大きなショッピングセンターがあるので、電化製品、文房具、玩具などなど、何でも不自由なく手に入れることができます。そして、何ととっても毎週一回、アパートのすぐ隣で開かれる市場(フェイラ)は、とても楽しみです。新鮮な肉、魚、野菜、果物などが所狭しと並び、豊富に、しかも安価で購入することができます。私の住む地区はフェイラの日が水曜日なので(地区によって開かれる曜日がちがいます)、私自身はなかなか行くことはできませんが、毎週水曜日の夕飯は、楽しみのひとつになっています。しかし、家具などを買ったときは、約束の日時に配達してくれなかったり、部品が足りなかったり、テーブルの椅子の足が一步だけ短かったりするなど、不便に感じることも時にはあります。そんなときは、こちらの「文化のひとつ」として諦め、あまり気にしないようにしています。



毎週水曜日に現れるフェイラ会場

○ ブラジルの食べ物

ブラジルを代表する料理といえば、やはり「シェハスコ」です。大きな肉の塊を串に刺して焼く「ブラジル風焼き肉」です。何かイベントがあるときには、必ずと言っていいほど、よく食べます。次に有名なのが、「フェジョン」です。豆を煮たものに塩味をつけて、ご飯にのせて食べます。見た目が「あんこ」そのものなので、味が甘くないことに最初は大きな抵抗感がありましたが、慣れるととてもおいしいです。そして、何ととっても豊富なフルーツ類です。スイカ、マンゴー、オレンジ、ブドウ、リンゴ、イチゴ、ポンカン(日本語と同じ、ポンカンという名前で売られています)なんかもあり、手ごろな値段で購入することができるので、ほとんど毎日の食卓やお弁当にフルーツ類が入ります。中には、見たことも、名前も知らないフルーツもありますが、食べてみると何でもおいしいです。ブラジル料理を食べさせてくれるレストランはどこにでもたくさんありますが、言葉が十分でない私たちは、自分でメニューを見て注文することがまだ難しいです。なので、「ポルキロ」というシステムのレストランをよく利用します。「ポルキロ」とは、日本でいうバイキングのように、店内に並んでいる料理を自分の好きな分だけお皿にのせるのですが、バイキングのように「食べ放題」ではなく、レジでお皿の重さを計って、のせた分の料金を支払うというシステムです。メニューが必要なく、好きな食べ物を自分で選んで、お手頃の値段(若干高いかも?)で食べることができます。シェハスコや寿司なども置いてあります。日本食のレストランもたくさんありますが、値段も高価なので、まだ行ったことがありません。ブラジルの食品は全体的に味が濃い(極端に甘い、しょっぱい)ものが多いですが、今のところ、とてもおいしく食べています。



ブラジル料理(フェジョンとシェハスコ)

○ リオの交通手段

来たばかりの私たちは、車を運転することができません。ブラジルは国際免許証が使えないので、もう少しすると運転免許を取得するための講習や試験を受けることになり、合格できると車を運転することができます。(そのころには、ポルトガル語ができるようになっていたのだろうか…!?) 自家用車がないかわりに、タクシーをよく使います。日本では「タクシーは高い、もったいない」というイメージがありましたが、ここでは、かなり遠くの方に出かけても、日本円で500円～700円くらい出せば十分です。昼間は歩いて行動することもあります。治安の関係上、夜に外出するときは、絶対にタクシーを使って移動するようにしています。遠くに行く場合は、もう一つの交通手段として地下鉄を利用することができます。地下鉄は150円くらいの料金を払えば、距離に関係なく、どこにでも行くことができるので、とても便利です。しかし、危険な地区を通る路線もあるため、決められた区間や路線を守り、利用するようにしています。その他、路線バスや電車もありますが、それらのものは治安上の関係から利用することを禁止されています。



リオの街を走るタクシー

○ リオの人々

リオで生まれた人のことを「カリオカ」といいます。(東京生まれの人を“江戸っ子”、北海道生まれの人を“ドサンコ”というのと同じです。) リオのカリオカは本当に明るく、そして親切な人が多いです。歩いていると人懐っこい顔をして話しかけてくれたり、荷物が手が塞がっているときはドアを開けてくれたりと、カリオカのようだけを見ていると「本当に治安が悪い国なのか?」とってしまうほどです。とくに女性や子どもを大切にしてくれます。子どもがいと、見た目はイカツいおじさんも、顔がニコッと笑い、「ポニート! (かわいい)」と言いながら親切に扱ってくれたりします。そして、数度会えば、みんな「アミーゴ」になってしまいます。一度「アミーゴ」になると、もう10年も前から知り合いだったように、あたたかく接してくれます。反面、日本人から見ると、気分屋でマイペースのように見えるときもあり、日本人のようなスケジュールに合わせてきちんと動いたりすることが、あまり得意ではないようです。注文した品物が届かず、連絡をしても、かえてくる答えは「アテ マニャン (また明日)」です。スーパーやショッピングセンターも、土曜日、日曜日に営業していない場所がたくさんあります。大きなショッピングセンターでも、日曜日は午後3時から店舗が開き始めたりします。スーパーのレジには、いつもたくさんの方が、ものすごい列を作って並んでいます。ちょっとしたものを買いたくて並ぶと、1時間ぐらいいは並ばなければならないこともあります。しかし、並んでいる人も、あまり苦痛は感じていないようです。(時には、店の食品を食べながら待っている人もいます。) そして、レジの人もしっかりと慌てていません。お客さんと楽しく会話しながら、のんびりと優雅にレジのキーを叩いています。そんなリオのカリオカたちとの生活は、とても新鮮で、刺激的で、とても楽しいです。言葉が喋れば、彼らともっと楽しく暮らせるだろうなあ…、と思いながら、現在、猛(!?)勉強中です。



アミーゴその1 パン屋のおじさん



アミーゴその2 駐車場の兄ちゃん



アミーゴその3 運転手さん